こがねむし,(90),2025;6p-7p　長崎昆虫研究会

対馬のキアゲハについて

境　良朗・杉　憲

1970年代まで

対馬のアゲハチョウ科の中でキアゲハ *Papilio machaon hippocrates*（C. & R. Felder, 1864）はさほど個体数が多い種ではなかったようだ。1950年代以降1970年代までの対馬の本種に関する文献を調べてみると、確認できた29報文中単に分布地として「対馬」をあげているような場合を除き、具体的な採集データを示しているのは14報文であった。

この14報文においては、1950年代が5例、1960年代はわずか2例であったが、1971年2例、1973年1例、1974年13例、1975年5例、1976年1例、1977年9例、1978年2例の計33例と、採集記録のほとんどが1970年代に集中しているのが分かった。

このことから、対馬において本種が最も多く見られたのは1970年代だと推定できるだろう。採集地を元に作成したのが図1の分布図（○1950-1970）であるが、ほぼ島内全域から記録があるのが分かる。また、有明山山頂や上見坂、厳原町後山などの低山地の山頂での記録が多く残されており、山頂でテリトリーを張る習性がうかがえる。

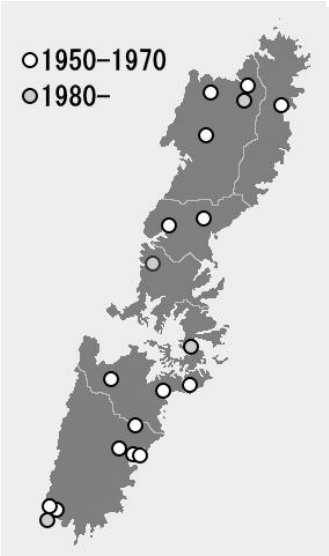

図1　キアゲハの記録地

1980年代以降

1970年代以後の文献は把握していないが、1980年代から2024年まで筆者らが採集・撮影した記録は以下のとおりである。（AS：杉・YS：境）

【採集・撮影データ】

1♂，上県町千俵蒔山，21．Ⅷ．1985 AS ； 2♂，上県町千俵蒔山，15．Ⅷ．1986 AS
1♀，厳原町豆酘，28．Ⅸ．1986 AS ； 1♀，美津島町芦浦，31．Ⅴ．1988 AS
1♂，上県町千俵蒔山，21．Ⅷ．2004 杉良介 ； 1♂撮影，上県町三宅林道，19．Ⅸ．2004 AS
1♂撮影（写真1），上県町千俵蒔山，31．Ⅶ．2005 YS ； 1♀撮影，豊玉町小綱，17．Ⅸ．2005 YS
1♀撮影，不明，24．Ⅶ．2005 AS ； 3♂，上県町千俵蒔山，8．Ⅳ．2006 YS
1♂撮影，上県町千俵蒔山，9．Ⅸ．2007 YS ； 1♂撮影，上県町千俵蒔山，17．Ⅶ．2011 YS
1♀，厳原町豆酘崎，3．Ⅵ．2023 YS

年ごとの採集・撮影個体数を示した（図2）。

図2　1980年代から2024年までの採集・撮影個体数

	85	86	87	88	1989-2003	04	05	06	07	2008-2010	11	2011-2022	23	24
採集	1	3		1		1		3						
撮影						1	3		1		1		1	
計	1	3		1		2	3	3	1		1		1	

1990年代は記録することができなかった。2004年から2007年にかけて少数が確認されたが2008年以降は2011年にわずか１頭の記録が出ただけだった。さすがに野外絶滅も危惧していたところ2023年に豆酘崎で1♀が得られた（写真2）。かなり厳しいながらもかろうじて世代をつないでい

る可能性が出てきた。

食餌植物

対馬での発生は4月上旬（5）～5月中旬（17）、6月中旬（12）～7月・8月、8月下旬（29）～10月上旬（4）の年4化と思われる（括弧内数字はそれぞれの初見・終見日：江島・境，1978）。食餌植物については唯一、「…食飼植物は対馬ではニンジンを確認している。」（浦田，1977）の記述がみられるが具体的なデータは示されていない。島内に自生するセリ科植物は海岸の近くで見られるボタンボウフウやハマゼリ、ハマウドや半日陰の道路脇などでよく目にするオヤブジラミなどがあるが、筆者らは産卵行動を含め、幼虫、蛹は未見である。また島内で広く見られるミカン科のカラスザンショウは本土域では食餌植物として記録があるが、対馬での個体数の少なさを考えると利用されていない可能性が高い。なお、訪花植物としてヤマザクラ、ノアザミ、ハマオモト、ブッドレア、ネムノキ、ヒガンバナなどが記録されている（江島，1978）。

写真1　山頂でテリを張る♂

写真2　豆酘崎産♀

考察

対馬において元々個体数の少なかったキアゲハが絶滅の危機にあることを示した。キアゲハの減少は、まだイノシシやシカによる環境変化が顕著に現れる以前から起こっていたこと、今でも野生のセリ科植物は島内各地で見られることなどから、不可解な事象であり原因を考察することは難しい。

同様の現象はミヤマセセリやトラフシジミなど数種においても見られる。ある専門家の方からは台湾での本種の個体数変遷状況から温暖化が原因のひとつではないかとの見解も頂いているが、対馬以外では本種が減少しているという話は聞かれず、反対に個体数が増えている都市部もあるという。今後も本種の消長に注視していきたい。

最後になるが日頃より対馬の植物全般についてご教示いただいている掛澤明弘氏、貴重な助言を頂いた矢後勝也氏にお礼申し上げる。

主な引用文献

浦田（1977）　壱岐・対馬の蝶の分布と生活，壱岐の生物，375-407　長崎県生物学会刊
江島（1978）　長崎県下で観察した蝶類生態記録，Canidia，（3）：43-70　対馬昆虫愛好会
江島・境（1978）　対馬産蝶類の発生期，Canidia，（3）：88-96　対馬昆虫愛好会

（さかい　よしあき　〒817-0032　長崎県対馬市厳原町久田451-2）
（すぎ　あきら　〒817-0015　長崎県対馬市厳原町西里347-5）